

**平成23年度 第8回（第25回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会
幸町2丁目分科会 議事要旨**

1 日 時 平成24年2月2日（木） 午後7時～9時

2 場 所 幸町公民館 講習室

3 出席者

- (1) 委 員 14名 欠席1名：足立委員
- (2) 事務局 6名 高須課長、小林主幹、白井主幹、国方課長補佐、加茂主査、山崎主査補
- (3) 傍聴者 5名

4 議 題

- (1) 【議題1】 小学校の統合場所について
- (2) 【議題2】 次回協議会について

5 会議資料

- (1) 次第・席次表
- (2) 資料1 平成26年4月の統合に向けたスケジュールとシミュレーション
資料2 第二段階の統合場所を検討するに当たっての前提条件と視点・評価表
別紙 第二段階の統合場所を検討するに当たっての評価表（委員提出分）

6 会議の概要

- (1) 【議題1】 小学校の統合場所について
別紙資料「第二段階の統合場所を検討するに当たっての評価表（委員提出分）」を確認後、資料1および資料2も参考にしながら、学校施設以外の評価の視点もふまえて協議した。
しかし、合意に至らなかったため、会長・副会長4人で「統合場所に関する案」を作成し、各委員に事前送付した上で、次回協議会（全体会）で協議することが確認された。
- (2) 【議題2】 次回協議会について
今回は幸町地区全体会として平成24年3月17日（土）午後1時から、幸町公民館で開催することとした。

7 発言要旨

(1) 長岡会長挨拶

25回目の協議会となる。今まで丁寧に、事細やかに協議してきている。
何とか三校統合に向けた方向性を見出していきたい。

(2) 配布資料の確認

本日は以下の資料を配布している。

- 資料1 平成26年4月の統合に向けたスケジュールとシミュレーション
 - 資料2 第二段階の統合場所を検討するに当たっての前提条件と視点・評価表
 - 別紙 第二段階の統合場所を検討するに当たっての評価表（委員提出分）
- これを基に、「第二段階の統合場所」について検討をお願いします。

(3) 議題1「小学校の統合場所について」

＜木幡議長＞ まず、別紙資料「第二段階の統合場所を検討するに当たっての評価表(委員提出分)」の記載内容について、事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞ 別紙資料について説明後、記載内容に関して以下の補足説明を行う。

①「不審者情報」について

不審者については、学校と警察、青少年サポートセンター等の関係機関が連携して適切に対応している。今回の記載を受けて、事務局としても今までに挙がってきている情報や対応を改めて確認した。不審者が出た場合には、近隣の学校どうしで情報共有し、注意を呼びかける体制になっている。

②「特別支援学級(つばさ学級)」について

知的・情緒の特別支援学級は、幸町地区の小学校では幸町第一小学校のみに設置されている。このため、幸町地区全体(幸町1丁目・2丁目)から通学している。

参考までに今年度の児童数は6人で、内訳は第一小学校区内3人、それ以外が3人であり、幸町1丁目からも通学している。

③ヘリポートについて

千葉県消防局で緊急時の離着陸場を指定している。

幸町地区で指定されている場所は、第一中学校と幸町一丁目運動広場である。

＜木幡議長＞ 事務局より説明があった。記載された事項について、ご意見あればお願いしたい。

＜安藤委員＞ 第二小で保護者にアンケートを取ったので結果をお配りする。

※『幸町地区学校適正配置』に関するアンケート結果についてはホームページに掲載している。

＜木幡議長＞ まずは、別紙に記載されている事項についてのご意見をお願いします。アンケートについては後ほど説明いただきたい。

＜巖倉委員＞ 第二小のビオトープの管理について不備である旨の記載があるが、冬を除いては地域の方も含めてしっかり管理している。ご承知いただきたい。

＜木幡議長＞ 他にないようなので、ここから2丁目分科会として、3校統合の場所について協議していきたい。アンケートの件もあるので、はじめに安藤委員からお願いしたい。

＜安藤委員＞ 在籍児童がいる159世帯中106世帯より回答があった。結果はご覧のとおりである。この結果だけで統合校の場所がどこが最適だということはできないが、配置という点では、幸町地区全体として見るか、幸町第一中学校区として見るかで意見の分かれるところである。アンケート結果の数値を見ると、88%は「第二小が良い」となっている。児童からも「第二小が良い」という声が85%に達している。前にも話したが、第二小は3校のうちで校庭が最も広く、「小学校生活で楽しいことは、休み時間に校庭で遊ぶことである」との声を反映しているかと考えられる。

- <布施委員> アンケートにはバスに関する記述があるが、バスを利用している児童がいるのか。
- <安藤委員> 保護者以外の方（祖父母等）が行事等で第二小に来る際に「バス利用が便利」ということであろう。
- <巖倉委員> 第一小の特別支援学級（つばさ学級）は、統合場所が第二小や第四小になった場合にも設置されるのか。
- <事務局> 特別支援学級が設置されている場合、統合校に設置し、存続する。
- <安藤委員> 26年4月の3校統合に向けて協議することは決まっているが、スケジュール的に見ても26年4月に受け入れられるのは第二小しかない。校舎を建て直せるのであれば第四小がベストだと思うが現実的にはできない。設備や環境面を見ても第二小しかないと考える。第一中区の中では、第二小では位置がかたよってしまうという意見があるが、地域の事情よりも現実的に考えて、児童が安全に過ごせる校舎とするのがいいのではないか。保護者からは「どうしてこんなに時間がかかっているのか」との声も多かった。
- <細谷委員> C委員からの意見に「居ながら施工」とあるが、仮に統合校の場所が第一小になった場合、第一小を改修するためには、一旦第二小に入らないとできないと認識していたのだが、いかがか。
- <事務局> 統合校の場所が第一小になった場合、26年4月に開校する際には、まずは第二小に入ってもらい、その間に第一小の改修ということになる。
仮に、26年4月という前提が外れれば別だが、26年4月に開校する際にはまずは第二小に入ってもらうことになる。
- <八島委員> 26年4月開校という前提が守れないことになるが、委員の方々の賛同があれば、第一小も「居ながら施工」ができるのではないかと考える。
- <木村委員> 統合校の場所として「第四小はあり得ない」ということで話が進んでいるように思えるが、財政面から考えても絶対に無理なのか。そうならば教育委員会としてはっきりと言及してほしい。そうすれば第四小の保護者にも理解してもらえらるだろう。
また、廃校となる2校の跡地整備についても担保されなければならないと考える。
- <木幡議長> 今のご意見について、事務局はいかがか。
- <事務局> 財政面や跡地の話があったが、あくまで「より良い教育環境の整備」という視点での検討を切にお願いしたい。
跡地についてであるが、これは統合場所が決定した後の協議事項であり、現在は「学校適正配置実施方針」に記している内容に従っていくということしか言うことはできない。
- <巖倉委員> 提出された意見のなかに「第二小と第三小は隣接している」とあるが、第一小と第四小の間や第四小と第二小の間より、第二小と第三小の間の方が距離があると思う。何をもって「隣接している」と考えるのか。「隣接」の定義があるのか。

- <事務局> 隣どうしにあるという意味では「隣接」であるが、距離的な定義はない。今の話は通学距離に関わってくる事項と考えるが、国の規定では通学距離は小学校4 km、中学校が6 kmとなっているが、学校適正配置実施方針にあるように距離だけでなく安全面や通学時間にも十分配慮することになっている。市内の統合先行地区においては、2 km圏内での統合であった。
- <安藤委員> アンケート結果はあくまで保護者から上がってきたものを、まとめてきたものである。これがすべて妥当かと言うこととは違う。「校舎を建て直すことができるのであれば第四小の位置が良い」と述べただけで、第四小が良いとっているわけではない。
- <亀田副会長> 出されている意見のなかに、距離の関係で「第二小から第一小へ」と「第一小から第二小へ」が異なるとの記述があるが、同距離という認識を持っている。
- <事務局> 平成22年11月の地元代表協議会で示した資料では「70 mの差」があるので、それを言っているのではないかと思う。
- <巖倉委員> 第二小の隣には幼稚園があり、相互の交流がしっかりできている。仮に小学校が第一小の場所に移ってしまうと幼稚園との交流がなくなってしまう。その点を懸念している。幼稚園との交流もおおきな視点と思う。中学校は幸町2丁目にある第一中が存続するのだから、学校配置のバランスについては、あまり取り上げなくてもいいのではないかと。
- <外山委員> 教育環境は変化していくものであり、資料として出された比較表で考えていくのは過去の産物に拠り考えていることである。そうではなく「教育環境を新たにつくる」と考えなければならない。地域の中心にある第四小の場所が良いと思う。
- <布施委員> 不審者情報があった場合、幸町にある小・中学校6校は校長の連名でプリントを出して情報の提供と注意の呼びかけを行っている。地域とも連携がとれており、子どもたちが守られている地域である。日中見守ってくれているのは地域の方々であり、なるべく地域の中心にあることが望ましい。しかし、財政上難しいのであれば、第一小または第二小で検討していただきたい。
- <八島委員> 真砂地区の方から話を聞く機会があった。統合後のマンション建設により児童数が増えてきて、教室不足になるのではとの不安がある、本当に統合して良かったのかという声もあるとのことであった。
統合してすぐに不安になるような状況が出るのであれば、慎重に考えなければならない。予算についても明確に言ってもらわないと、逆に（予算を）出してもらえないのではとも思ってしまう。慎重に考えなければならないと思う。
- <鈴木委員> 「子どもたちを地域で育てる」ということになれば、コンパクトシティという考えもあり、学校はセンター街区のなかにあった方が良いと思う。防災面からは（学校には）避難所という役割があることから考えると、配置バランスを考えなければならない。第四小ということになると様々なことがクリアにならないということであれば、第一小ということを次善策として挙げたい。統合準備会が始まっている。その中で不安な点が意見

として出されたということであるが、具体的にはどんなことなのか。

<木幡議長> 統合準備会で出た話について、報告できるか。

<木村委員> 第一小と第四小が統合になっても、学級数としては増えないために配置される先生の数は、現在の第一小の先生の数と変わらない。また、第四小の先生方がどのくらい統合小へいけるのかも不明である。統合準備会では複式学級は行われるとの話もあった。こうしたことから「不安である」という声が出ている。

<木幡議長> 学級数は、2つ増加すると認識している。来年度の第四小の複式学級の件についてはどうなっているのか。

<事務局> 統合準備会で担当課から話があったのは、あくまでも「法律にもとづくと、複式学級が行われる学級規模である」ということであるが、実際には行われないように、何らかの措置を講ずることになると認識している。

また、先行地区での状況も踏まえると、第四小の先生方が全く行かないということはない。統合に伴う先生方の加配も行われる見込みである。

<八島委員> 「不安である」というのは、二段階統合ということで立て続けに統合が続くことへの不安もある。第一小と第四小の統合準備をしながら、三校統合の準備もということになると、とても大変であるという思いからである。

<外山委員> 話が後戻りしてしまっているように思う。統合となる第一小と第四小の痛みは当然あることはわかるが、話を前に進めなくてはいけない。早く結論を出してほしい。新しい視点を持って考えたいということで、第四小をと考えている。

<木幡議長> 今は詳細なデータがないので、予算の話は一旦置いておく。第一小と第四小が統合した場合の規模は、平成25年度で14学級（普通学級12＋特別支援学級2）であり、統合しない場合の第一小の規模である12学級（普通学級10＋特別支援学級2）より、2学級増加するはずである。それ以外でのご意見があれば出してほしい。

<巖倉委員> ここで決まったことは、いずれ全市的に検討するということになるだろうから、それに耐えられるようなものでなければならない。

「地域のエゴに抛らず、お金をかけずに、早く」ということで考えていかなければならない。

<木村委員> この協議会は元々「小学校は2校・中学校は1校」ということでのスタートだった。その中で、小学校については第三小の規模が大きいので、2丁目での3校統合という流れになった。予算だけでなく、何年か後にどうなるかも考えていくべきだろう。第四小でなければ、第一小の場所に統合してほしい。

<安藤委員> 幸町地区全体で地域のことを考えるのであれば、第三小と第二中の代表も入れるべきであろう。2丁目分科会ということでそれをしていないのだから、2丁目として考えるのが筋である。はじめから地域のことを優先するのではなく、この統合をきっかけに新たに地域を作っていくという考えに立つべきである。

<高村委員> 第一中は小規模校化しており、現在の部活動の状況や高校でいきなり
多人数になった時の対応ができるか等を考えると、保護者からは不安の
声が出ている。

しかし、現状はなかなか解決していかない。第一中としては幸町全体
として考えていただきたい。幸町全体のバランスを考えると、第一小の
場所にしてほしい。それに伴って、統合時期の26年4月を一年延ばす
のが可能ならばそれも仕方ないのではないか。安全面についてだが、
不審者情報については学校からのプリントが間に合わない場合には保護
者の方から情報を流している。26年4月に3校統合ができなくても、
第二小には第一中学区に変更していただきたい。

<蟹江副会長> 第一中と第二中を存続した上で、小学校の統合からということで2丁
目分科会に切り替えた経緯がある。2丁目を出された結論は1丁目も
十分尊重していくことは間違いない。ここで出された結論に対して、
全体会において1丁目側から異論を唱えることはない。

<木幡議長> ここまで話し合ってきたが、統合場所について合意ができたという
状況ではない。この状況を長岡会長はどう考えるか。

<長岡会長> 統合場所をどこにするかについて、今日も含めて2丁目分科会で何回
も話し合ってきたが、意見がまとまらない状況である。

そこで私から提案をしたい。幸町協議会の会長・副会長の4人で統合
場所をどこにするかについて一任していただけないか。一任していただ
けない場合には、会長・副会長で協議した案を次回3月の協議会前に
委員の方々に提案させていただけないか。

副会長のみなさんよろしいか。

<副会長3人> 了解する。

<巖倉委員> 会長、副会長は第一小・第四小側である。偏りがあるのではないか。

<木幡議長> 会長の提案は、一任していただけないか、一任してもらえないのであ
れば、会長・副会長で協議した案を提案させてもらえないかというこ
とである。会長・副会長は、1丁目・2丁目から2名ずつである。偏りが
あるとの巖倉委員の発言はあたらない。意見として伺っておく。

<細谷委員> 一任ではなく、会長・副会長で協議して案を提案していただくのが
良い。

<鈴木委員> どういう提案の形になるのか。

<木幡議長> それを含めて今後協議したい。

<布施委員> このままでは前に進まない。会長・副会長で協議して案を提案して
いただくのが良い。

<木幡議長> 会長・副会長で協議して3月の協議会前に案を提案させていただき、
それを全体会で協議することでよろしいか。

<一 同 > 了解。

<木幡議長> 3月の協議会前に文書で示したい。

<木村委員> 第四小では、3月7日に保護者会があり、できればそこで保護者にも
示したいので、3月7日以前にももらえるとありがたい。

<木幡議長> そのようにする。

- <安藤委員> 会長・副会長で協議していく際の「前提」は何か。
- <木幡議長> これまでの確認事項は「①平成26年4月に3校統合する」ということと、「②3校統合時に（在校生への弾力的運用を図りつつ）第二小が第一中区に変更する」ということであり、この確認事項と協議会で出された意見を前提にして考えていく。
- <蟹江副会長> 合意事項を無視することはない。しっかりとふまえて協議する。
- <安藤委員> 確認されている前提事項が覆されることはないということでしょうか。
- <長岡会長> 確認されている前提事項、および学校適正配置実施方針に基づいて検討する。
- <木幡議長> 時間がきているので議題1の協議を終わりにしたいが、その他に確認する事項があるか。
- <亀田副会長> 別紙のC委員の第一小についての意見の中に「避難場所の確認」とあるが、仮に第一小が跡施設となった場合は、その活用検討の中で考えることもできるのではないかと。
- また、「児童数が多く、公正である」ということは、ゆくゆく中学校の統合の協議が行われた時は、人数の多い第二中が統合場所としてふさわしいということでしょうか。
- <八島委員> それは別の話である。
- <巖倉委員> それでは論理が矛盾してしまう。
- <布施委員> 第一小と第四小の統合に際して合意されたことは統合準備会でも反映していただきたい。
- <事務局> 先程の複式学級に関わることかと思う。制度と運用があり、適切に運用を図っていくということでご了解いただきたい。
- 先行地区の統合校では、「ひとつの学校」として活動している。幸町地区でも同様になって行くようにご支援いただきたい。
- <木幡議長> 3月の協議会前のなるべく早い時期に、案を提案する。

(4) 議題2「次回協議会について」

- <木幡議長> 議題2「次回協議会について」に入る。
- 今回は3月、本年度最後の協議会となる。
- 今回は「全体会」として、協議会の進捗状況を全体で確認して（合意する事項があれば全体に諮り）、各団体で次年度役員が変わった場合にも、きちんと引き継いでいただけるようお願いしたい。
- 具体的には3月17日、土曜日、午後1時から3時まで、会場は幸町公民館の大ホールで開催することとしてよろしいか。
- <一同> 異議なし。
- <木幡議長> では、今回は3月17日土曜日、午後1時から3時まで、会場は幸町公民館の大ホールで開催する。
- この協議会は、傍聴が可能なので、委員におかれては、各団体に日時と会場をお伝えいただきたい。他になければ、これで議事をすべて終了とする。

(5) 諸連絡

<事務局> 議事要旨について、後日、委員の皆さんに案を送付する。訂正等あったら期限までに返送をお願いしたい。返送がない場合は変更なしとして処理させていただく。

また、本日の協議で、会長・副会長が次回の協議会の開催前に案を委員に提示することが了承された。案はできるだけ早く提示してほしいとのことなので、事務局としても委員の皆様への送付についてお手伝いをしたい。

最後に、第一小と第四小の統合校の円滑な開校に向けて、第2回「幸町第一小学校・幸町第四小学校統合準備会」を2月24日（金）午後1時30分から、幸町第四小学校で行う予定である。現在、学校の先生方やPTAの方々、教育委員会の関係課担当で着々と準備を進めている。25年4月の統合が円滑に進むよう両校と協力して準備を進めていきたい。

(6) 閉会

<長岡会長> 熱心な協議に感謝する。次回の協議も宜しくをお願いしたい。